



208
91

文人穴さがし

全

文
人
穴
さ
が
し
全
書
叢



国立国会図書館 文人穴さがし 2巻 208-91

ガラス使用

近世
名家

文人穴さがし

全一冊

208
91

文人穴さがし 上巻

江戸前の野客

平亭銀鷄戲編



○東天紅廬の在宿日小諸先生番附を評論也

年々つる新玉の春はちりりやばぶ御礼心の小冊ハ師走の末々の筆とどうやうさ
りつこの急趣向煤拂餅の厄ちらひ或は豆まき松かざり。笛や太鼓の太神樂。オ
クのみと雑煮箸。今晩ハ福茶とらふまじ。向より来る小提灯。れが昔の借錢をそ
うり小来りて掛乞少。あつりやうの筆をとり。詫言一と墨とまじ。どうやらうから
終り。是此幸の緒のちろび初一悪滑稽と。宜く推しあふ。琴臺イヤ銀雞



さん此番附の所、美いあんやで分りやと。甲七があらまきうぐ甲七があく。まど誰か
 もひらつこのくぐ。廣くもせまくもわらうら穴穿うらちぶ。銀鶏ぎんけい穿つと替りてありや
 まど矢張うきとれ小言をのふ人があるやとびらや。まどんおめひの中と
 一時のいそむ色でありかいら腕をこねくひさうくうかせん槽下おがら下茶とく出
 してへ甲七がのつとらふ人がありかまどが微ま番附風ふ物とやせんぢやア体裁ていざいも悪
 そして古い人の長老ちやうらうぶのふ。おちき書てものぢやアうやせん。雲山うんざんいの
 位あぢ我あんさア書画含めも五六十筆ゆまきうら。破やぶも甘も百も承うけぶのゆま
 が兎角今の人の訣とくを解げえぬ困こまりやと。寛政うら天保まど番附も何程いづら案
 ころやせんがおまどびみどばがありかとせん。まどつふも日本一の繁華の
 地ちであらやとら。撞つの人のかやと種うぐまつこのこと考うかるめどぐら其内ふ
 人の氣ふつとあり又い受の悪あつとありさうありてらりかと研齋けんさいまや
 二。実じつおまの地祝の通り書くぶ小人せうじんお賛たけらるやとをらりゆ書ぬ物
 ぢらりやと。は番附ぶとイヤ不佞ふべいへ首くびむりやと居る。今ありやと処ところわらう
 あめのいどどいふ人がありかどと。まどやアの人がを理りてらりやと。主人の祝の傳
 長者を槽下おがらやと跡あとへのららば同位どういおまき中ちゆうとのふどけとらやどこの穿
 ぢらりやと。見物人や頭取作者のゆりこけまどいも動うごぬ格かがありかどとせ。文堆ぶんたい
 まどりは何もあらはさうりおまらやといらんまどせんまど番ばんめまどらく
 のつら移うつらうとま中ちゆうた通り。まどこの槽おがらは。うらまをまきほ。名もあき人か
 らぬらうらいもし人持にんぢをうかつて金まの漏もぐらりやと。まどは振ふとら名どか
 まどら味あじ感かんあら。是こらうらとら高名たかおまらぬまらにまままらうらとらうら
 上うへ

上



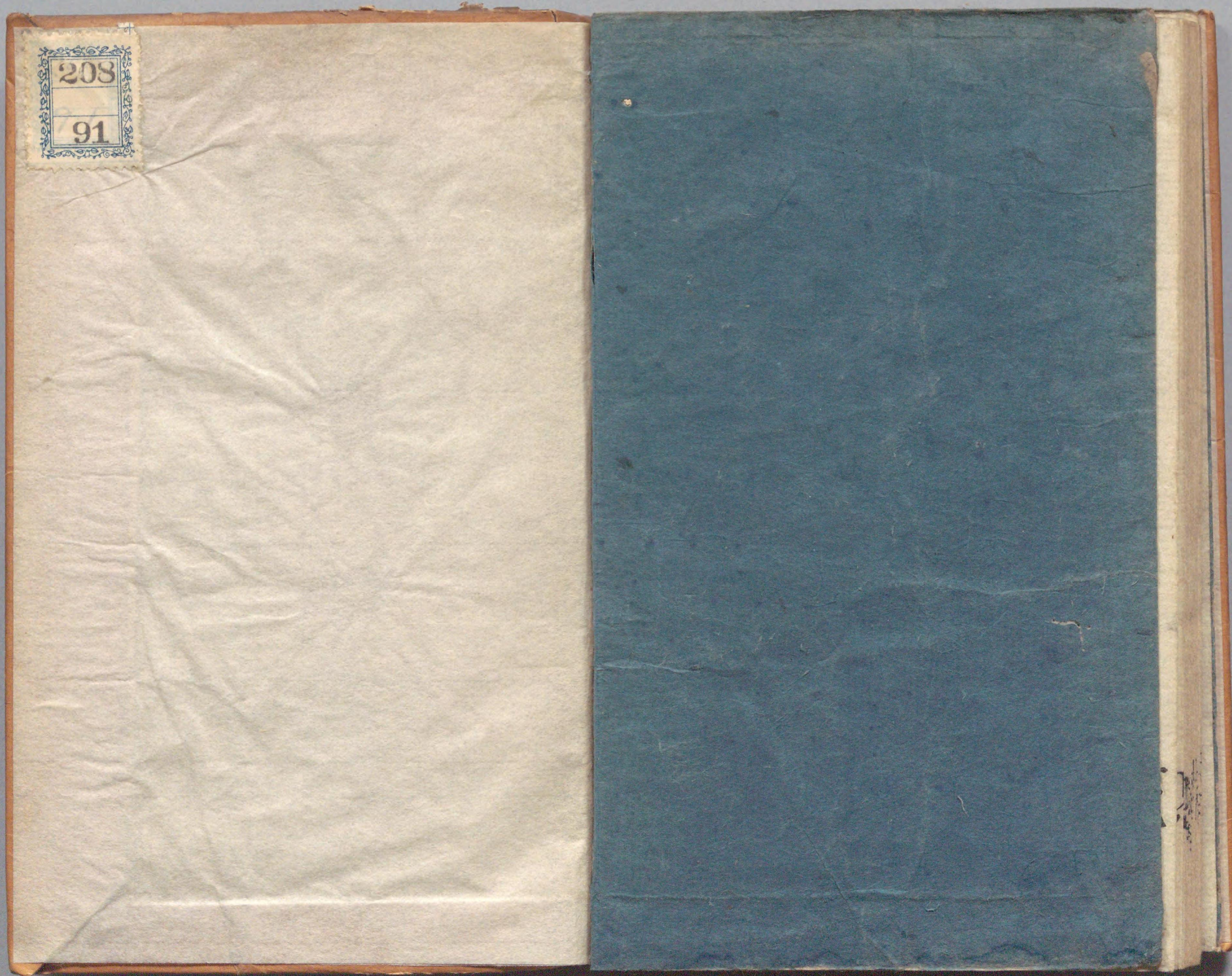
On the right side of the page, there is a vertical column of handwritten text in Kuzushiji. The text is written in a cursive style and includes several words and phrases, some of which are enclosed in small boxes. The text appears to be a list or a series of notes related to the main text on the left.

浪華の夢
其の
The main text on the left page is written in Kuzushiji. It begins with the title '浪華の夢' (Ranwa no Yume) and is followed by a long, flowing passage of text. The writing is dense and characteristic of the Edo period. There are several instances of words being boxed, such as '浪華' and '夢'. The text seems to be a narrative or a collection of related stories.



208
91

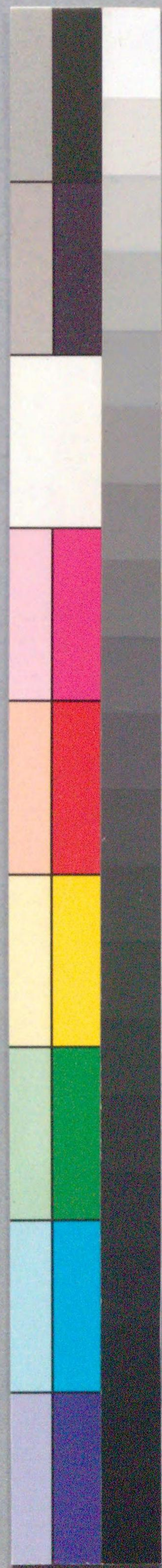
下
九



国立国会図書館 文人穴さがし 2巻 208-91

ガラス使用





国立国会図書館 文人穴さがし 2巻 208-91



ガラス使用

